

LOGS 県境の尾根

二子山

標高 1165・8m

山行実施日
2016/6/11 日

メンバー
S田と(L)
K地(SL)
O知、O川

週間予報では雨だったが、良い方に代わって梅雨の晴れ間、O知さんの車で川越駅発、下道をトコトコ走り下山口の林道に駐車して行動開始。今回は県境の尾根を登る計画なので志賀坂峠まで車道を歩くことに、

O知さんを先頭に出発、国土地理院の地図を見ながら登山道を探す、一度送電線が走っていて目印になり、少し荒れた山道を登る。昭文社の地図には載っていない登山道、どうしたものかと思いつながら只管尾根道をすすむ、ただし東京電力の送電線が尾根上に走っていて、それがヒントになってそれ程道迷いもせず何とか魚尾道分岐に辿りついた。

途中、O知さんから鉄塔にもいろいろ種類があつて御説明があつた。形も様々で1050ピークを横切る鉄塔はまるで烏帽子のような形をしていて勝手に「烏帽子鉄塔」と名付けた。流石に専門化だけあつて「二本連なっているのは……」

と説明は受けたか???

分岐から先は普通の登山道になったが、南側から見る二子山西岳はまるでゴジラの背の如くギザギザな稜線だ、気持ちを引き締めて、心も引き締めて岩稜帯を登る、思った以上にしっかりとしたホールドがあり皆さん安定した登り。20分ほど登って振り返ってみるとここまで進んできた志賀坂峠からの尾根道を振り返る、結構歩いてきた。

しかも1050mのピークから派生した尾根道を辿って行くと、見ても無残な叶山の石灰岩が削られた山並みのはっきり伺える。もうこれは山ではない、昔誰から聞いた、二子山も石灰岩の採掘の危機のあつ



たとか、一つ間違えると二子山も武甲山の如く切り刻まれて山の形を失っていたかもしれないと思うと、恐ろしい。



気を取り直して岩稜帯を進み、12時半頃二子山西岳頂上に到着、クライミングでは何度も踏みしめた頂上も尾根から登るとまた違った趣がある、気になっていた50の山の責任も果たし、ホッと一息ついた。マツタリしながら昼食し、皆で記念の写真をパチリ。



メンバーに恵まれ、楽しい二子山でした。(S田と記)

